

14 老人保健施設から通院透析となったチーム医療連携

慈修会 上田腎臓クリニック 透析室

看護師¹⁾ 臨床工学技士²⁾ 腎臓内科³⁾

中村 千晴¹⁾ 田中 由美¹⁾ 柳沢 恵¹⁾ 小菅 崇²⁾ 塚田 学³⁾ 塚田 渉³⁾ 塚田 修³⁾

【はじめに】

当老人保健施設では有床診療所 19 床を併設している点を活かし、透析導入からリハビリテーション目的の入所を経て在宅復帰を目指している。

今回、透析導入前から家族間の関係が悪く当初在宅復帰が困難と思われたが、多職種連携を図り通院透析へ移行できた症例を経験したので報告する。

【症例】

82 歳 女性

独居以前から家族関係は不良

家族背景：夫（他界）

子供 3 人（長男・長女・次男）

キーパーソンは長男

現疾患：慢性腎不全

CKD 憎悪にて透析導入目的で当クリニック入院
 バスキュラーアクセス：動脈表在化
 穿刺トラブルのため、長期カテーテルへ切り替える。

人工血管移植術検討するも家族の同意が得られず保留となっていた。

入院中に腰椎圧迫骨折（L1）併発 ADL 低下あり

介護保険申請 要介護 4 認定

本人は在宅復帰希望。

家族は長期入所・終身希望。

身体機能低下のためリハビリテーション目的で入所し在宅復帰を目指すこととなる。

問合せ先：上田腎臓クリニック 透析室 中村 千晴

〒386-0002 上田市住吉 322 (TEL 0268-27-2737)

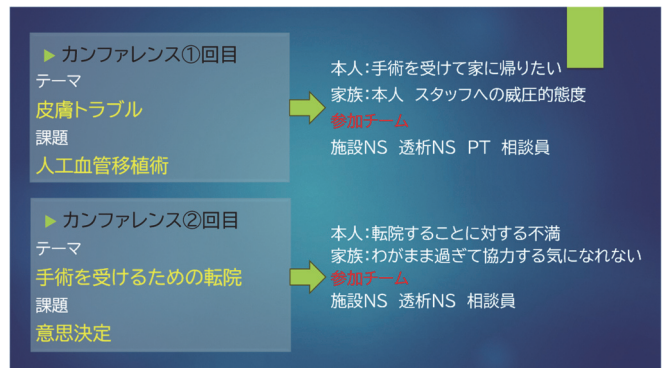
入所中の問題点とチーム編成

入所中の問題点	医療・福祉チーム
①長期的カテーテル 皮膚トラブル	施設看護師
②人工血管移植術	透析看護師
③在宅復帰支援	理学療法士
④家族支援	支援相談員
⑤通院透析・在宅生活支援	管理栄養士
	介護福祉士
	ケアマネージャー

時系列を追って 5 つの問題点が上がり

7 名の医療・福祉チームを編成しカンファレンスを実施していくことになった。

カンファレンス 1 回目・2 回目



カンファレンス①②では長期カテーテル周囲の皮膚トラブルの発生で本人のストレスと不満が増し

人工血管移植術の再検討となる。担当医からの説明後、本人の心境の変化もあり家族間で言い争う場面もあったが無事に転院し手術を受けることができた。

カンファレンス 3 回目・4 回目

▶ カンファレンス③回目
 テーマ
 退所に向けた支援
 課題
 ADL拡大家族支援地域連携

▶ カンファレンス④回目
 テーマ
 家族支援
 課題
 試験外泊

本人:手術を受けて良かった
 家族:協力性の低下
 参加チーム
 施設NS 透析NS PT 栄養士
 相談員 ケアマネ 介護士

本人:歩行可能になり自信が
 家族:本人と距離をおくよくなる
 参加チーム
 施設NS 透析NS PT 栄養士
 相談員 ケアマネ

人工血管移植術後、長期カテーテルの抜去再入所しリハビリも順調に進み杖歩行が可能となった。退所に向けたカンファレンスを実施するが本人の前向きな思いとは逆に受け入れる側の家族の不安や戸惑いがあり拒否的になり家族支援が課題となった。
 試験外泊など提案し在宅支援で必要なことをサポートした。

カンファレンス 5 回目

▶ カンファレンス⑤回目
 テーマ
 通院透析・在宅支援
 課題
 家族間の信頼関係

本人:家族への不満
 家の中を物置にされて居住スペースが
 なく全てに対して苛立つ

家族:本人が挑発的で口論になり全て家族
 のせいになれる。家族の生活も尊重して
 ほしい
 参加チーム
 施設NS 透析NS PT 栄養士 相談員 ケアマネ

『医療・福祉サポートが必要。大勢のスタッフが
 関わっている。今まで色々あったが、意地の張り
 合いは止める』

試験外泊で課題になった事を挙げ、地域サービスも検討した。本人の先走る思いと家族の不安や焦り、家族の関係性からお互い投げやりになってしまうこともあり目標の再確認を行いチーム連携でサポートした。

最終カンファレンス

最終カンファレンス

月	火	水	木	金	土	日
透析 AM		透析 AM	透析サービス (入浴・リハビリ)	透析 AM	家族	家族

透析日: 月・水・金 AM デイサービス: 木 家族介入: 土日

家族間での約束事
 ・車の運転をしない
 ・1人で無理をしない→家族、医療・福祉スタッフに頼る
 ・家族間で思いやりを持つ

退所後の課題
 ・デイサービスを週2回に増やす。
 ・家族介入が困難であれば、ヘルパーや配食サービスも検討

退所日
 最終カンファレンスの
 2週間後 に決定

退所日の決定。家族間での約束事・週間スケジュール・支援サービスを確認し無事に退所を迎えた。

当施設内の多職種連携



患者・家族を中心にカンファレンスを実施し専門性を用いて各職種からアプローチし連携することで一貫したサポートができた。

【結語】

施設から通院透析に移行するまでに多職種が患者・家族に寄り添い切れ目のない医療・福祉サービスを提供することや情報共有とディスカッションが重要と考えられた。
 当院の複合施設の役割や地域連携の必要性も実感できた。多様化する社会において様々なニーズに対応できる質の高い多職種連携が求められていくと示唆された。

著者の利益相反 (conflict of interest: COI) 開示 : 本論文に関連して特に申告なし。

【参考文献】

なし